

# 原因不明の腹痛の既往のあった 左傍十二指腸ヘルニアの1例

## — 本邦での集計 —

はやし ひこ た はっ とり しん じ ふじ い とし ゆき  
林 彦 多<sup>1)</sup> 服 部 晋 司<sup>1)</sup> 藤 井 敏 之<sup>2)</sup>  
こ とう つかさ いがらし まさ ひこ  
小 藤 宰<sup>1)</sup> 五十嵐 雅 彦<sup>1)</sup>

キーワード：左傍十二指腸ヘルニア，絞扼性イレウス，腹痛の既往

### 要 旨

幼少時より腹痛を繰り返し、原因不明とされてきたが、腹痛増強時のCTで左傍十二指腸ヘルニアによる絞扼性イレウスと診断し治癒できた症例を経験したので報告する。

症例は64才の女性。腹痛を発症した第1病日から第4病日にかけて精査をされたが原因を特定できなかった。しかし第9病日に再び腹痛が増強し、CTを施行したところ上記診断。同日開腹手術を施行。左十二指腸空腸窩に5×2.5 cmのヘルニア門を有し、ヘルニア嚢は大きさ14×7×7 cmで下腸間膜静脈の後方を通り左下方の下行結腸間膜の背側に広がっていた。ヘルニア内容は空腸起始部から110 cmであったが、壊死には至っておらず温存できた。術後経過は良好で術後10日目に退院した。術後、1年半以上経過したが、再発もなく、腹痛を繰り返すことも無くなった。

まれな臨床的経験であったと考え、報告に意義があると考えた。

### 緒 言

傍十二指腸ヘルニアは比較的稀な疾患で、術前診断が困難なことが多いとされている<sup>1)</sup>。幼少児より原因不明の腹痛を繰り返してきたが、腹痛増強時に来院した際のCTで左傍十二指腸ヘルニアによる絞扼性イレウスと診断し、手術で治癒でき

た症例を経験したので若干の文献的考察を加え、報告する。

### 症 例

症例：60代女性

主訴：腹痛

現病歴：腹痛のため第1病日から第4病日まで、当院内科精査入院。上部消化管内視鏡検査や腹部単純CTを施行されたが、原因不明とされた。第9病日、さらに激しい腹痛が出現したため、来院。

Hikota HAYASHI et al.

1) 益田地域医療センター医師会病院

2) 島根大学医学部消化器総合外科

連絡先：〒699-3676 益田市遠田町1917-2